

Ⅱ-5

困ったことへの対処法

子どもが成長するにつれて、活動範囲が広がり、交友関係も広がっていきますね。すると保護者としては、今までとは違った形の「困ったなあ・・・。」と感じる事態に遭遇することも増えてきます。ここでは、子育てに係る様々な問題への対処法について、みなさんで考えましょう。

【エピソード】「もう学校へ行きたくない」

小学校3年生の龍馬くん。保護者からみるととても優しい子ではありますが、少々気が小さくて、自分の思いをはっきりと言にくいことが気がかりでした。でも、毎日元気に学校へ出かけていく姿を見て、まあ楽しくやっているのだろうと安心していましたが、ある日、「もう学校へ行きたくない。」と泣いて帰ってきました。いくら理由を尋ねても話したがりません。

～休み時間に、ドッジボールに入れてもらおうと、じっと長い間様子を見守り、やっとのことで勇気を出して「入れて」とお願いしたところ、弥太郎くん「人数が合わなくなるからダメ」と言われてしまったようです。～

ワーク1 ★泣いているばかりの龍馬くん。どんな声かけをしていけば、理由を話してくれるでしょう。また、理由を聞いた保護者の気持ちは？

● ロールプレイに挑戦！

- ・ グループの中で、龍馬くん役と保護者役を決めて、ロールプレイをしてみましょう。
- ・ 二人の役以外の方は、やり取りを見て、感じたことを後で話し合ひましょう。



● 「龍馬くんの気持ち」「保護者の気持ち」について話し合ひましょう。

龍馬くんの気持ち

保護者の気持ち

ワーク2 ★龍馬くんの問題を解決するために、どう対応していけばよいでしょう？

●あなたならどうしますか？

龍馬くんとの話で収める。

家庭で相談する。

弥太郎くんの家へ電話する。

担任の先生へ電話する。

周りの保護者に電話する。

その他 ()



●その後の展開を想像してみましょう。

●後日、龍馬くんのことを知らされた弥太郎くんの保護者はどうしたらよいでしょう？

ワーク3

●エピソード以外の事例についても、対応方法を自由に話し合い、日頃から心がけておくことについてグループでまとめましょう。

<想定される困った事例>

○家での暮らしの中で

- ・テレビやゲームに夢中で、やるべきことをしようとしめない・・・。
- ・急に反抗的になって、言うことを聞かなくなってしまう・・・。

○学校や地域での暮らしの中で

- ・友達に、学用品をこわされてしまって・・・。
- ・ふざけていて、友達にけがをさせてしまって・・・。
- ・友達に誘われて、一緒に万引きをしてしまって・・・。

日頃から、こんなことをしておけば！

・
・

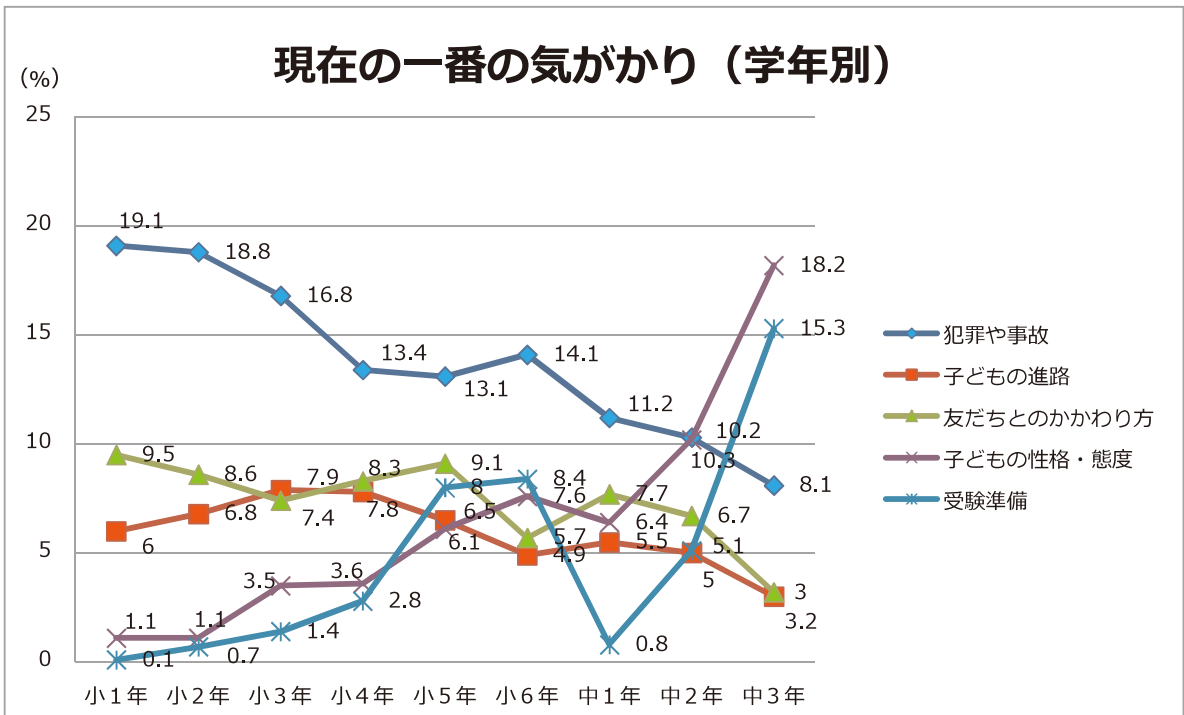
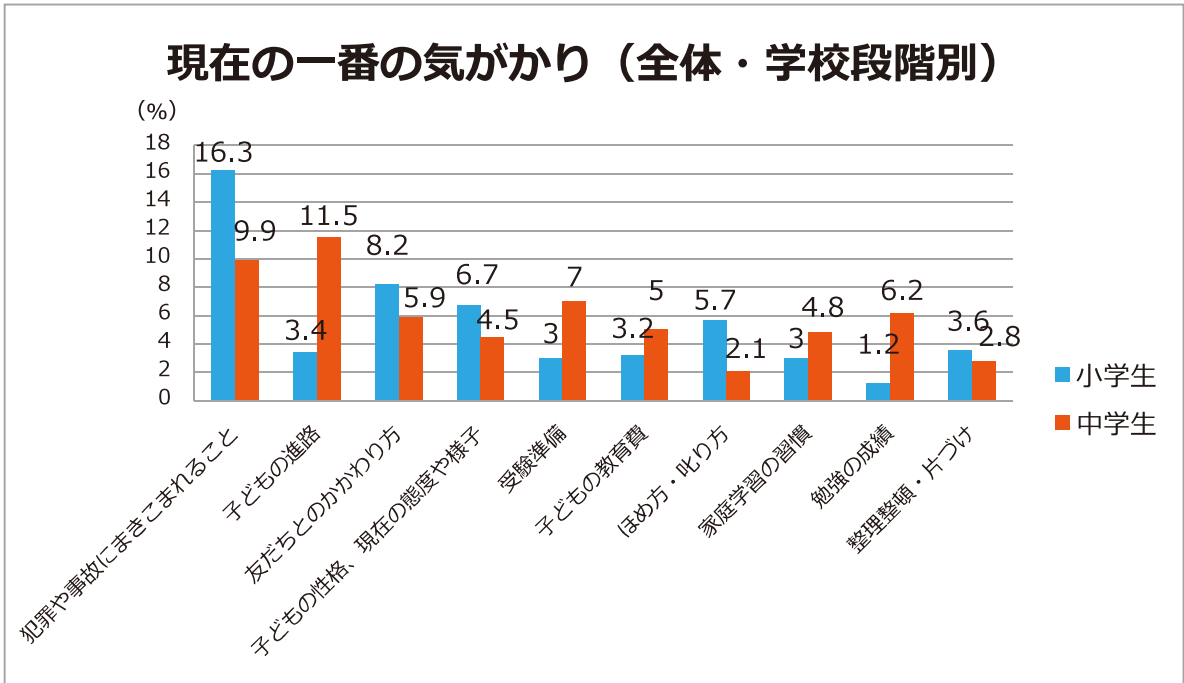
ふりかえり

●「気付いたこと」「やってみようと思ったこと」を書きましょう。

Ⅱ-5

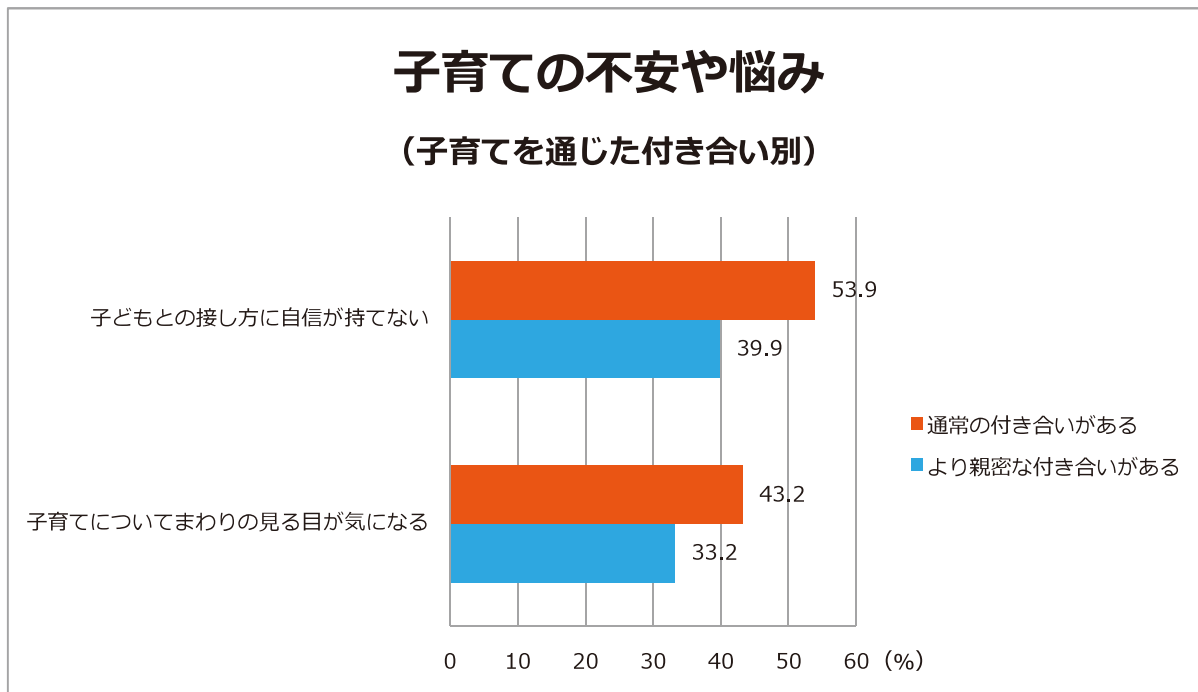
資料

毎日の子育て生活「現在の一番の気がかり」



出典：2007年ベネッセ教育開発研究センター「第3回子育て生活基本調査」より

子育て支援に関する地域への期待



(備考) 1. 厚生労働省「子育て支援対策等に関する調査」2003年より作成。

2. 子育ての不安や悩みに関して「子どもとの接し方に自信が持てない」および「自分の子育てについて、親戚・近隣の人・職場など周りの見目が気になる」という問いについて、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の子どもを通じた付き合い程度別(「より親密な付き合いがある」または「通常につき合いがある」)の割合。

3. 上記2で「より親密な付き合いがある」は、選択肢では「子どもを預けられる人がいる」「子どもをしっかり、注意してくれる人がいる」または「子どもを連れて、一緒に遊びや旅行に出かける人がいる」と回答した人を、また、「通常につき合いがある」は、選択肢では「保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、挨拶をする程度の人がある」「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人がある」「子どもを連れて家を行き来する人がいる」または「子育ての悩みを相談できる人がいる」と回答した人と言う。

4. 回答者は、全国の未就学児を持つ母親1,765人

出典：平成19年度版国民生活白書より

ねらい	子どもをめぐる様々なトラブルに適切に対応することができるよう、その対処法を考え合うとともに、日頃から、保護者・先生・地域住民とのつながりを深めておくことの重要性に気付く。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○トラブルに対応する不安感を軽減することができる。 ○トラブルの対処法の幅を広げることができる。 ○周囲の協力を得ながら対処したほうが良いと思うことができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ6人程度のグループに分かれておく ○役割分担をする（進行・記録・発表） ○助言者をお願いできる場合は、事前に打ち合わせをしておく <p style="text-align: right;">○筆記用具</p>		
時 間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導 入 5分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介では、保護者の子どもの名前、気がかりなことなどについて話をする中で、悩みを共有しようとする雰囲気づくりをする。 ・特定の参加者が批判されないよう留意する。 	
展 開 15分	ワーク1 ・エピソードを読む。 ・ロールプレイを行う。 ・2人の気持ちを考える。 (個人で記入し、その後グループで協議)	<ul style="list-style-type: none"> ◎登場人物の心情を想像することで、子どもの立場に立った接し方についてみんなで考えることをねらいとする。 ・龍馬役、保護者役を決め、ロールプレイを行う。(2名) 他の4名は、保護者の声かけの仕方と効果を観察する。 ・子ども役は、どう聞かれると話しやすいかの感想を述べ、つらい思いをしている子どもに、どう対応するのが効果的かを考える。(保護者の接し方) ・わが子を大切に思うと同時に、どうすればいいかとまどってしまう保護者の気持ちにふれる。 	
	15分 ワーク2 ○各自での作業 ・解決方法を選択する。 ・後の展開を想像する。 ・後日、話を聞かされた弥太郎の保護者の対応について考える。 ○グループ協議 ・各自の作業で記入したことを発表する。 ・意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ◎事例への対処法を考えることで、トラブルへの対処法について幅を広げることをねらいとする。 ・方法は複数選択可とし、その場合は、順番も考える。 ・両方の保護者の気持ちを想像しながら、対応を考えられるようにする。 ・どの解決方法にも、長所・短所があることに気付く。 ・人間関係の親密度により、効果が異なることに気付く。 ・加害者の立場となったときの対応法について話し合う。 	
	15分 ワーク3 ○グループ協議 ・想定事例について、ワーク2をもとに、対処方法を考える。 ・日頃から、必要なことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎他の場合の対処方法や日頃から必要なことについて考えることで、周囲の協力を得ながら対処する必要性について気付くことをねらいとする。 ・参加者の状況に配慮しながら、ファシリテーターが、取り扱う想定事例を選択しておく。 ・ワーク2の対処法を選択したり、組み合わせたりしながら、事例の特性に応じた対応方法を考える。 ・周囲の支援が効果的であることと、保護者・先生・地域との日常のつながりが重要であることを確認する。 	
まとめ 10分	ふりかえり ・各自の思いを記入する。 ・発表し合い、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を紹介し、みんな悩みを抱えていること、地域とのつながりがある人は不安が少ないことを伝える。 ・子育てにトラブルはつきもので、心配せず自信を持って、いざとなったら一人で悩まず、周囲に援助を求めることが大切であることを伝える。 	資料(P.71～P.72)